

③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財情報基盤の整備・ホームページの運用（企06）	企画情報部	57
専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（企07）	企画情報部	59
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	60
広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（企08）	企画情報部	61

文化財情報基盤の整備・ホームページの運用 (③企06-11-1/5)

目 的

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図り、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

成 果

1. 情報システムの整備

情報システムの整備については、広報委員会のLAN委員、各部・センターのLAN担当で検討のうえで実施している。

(1) ネットワーク機器の更新：平成23年度にハードウェア保守の期限が切れるネットワーク機器を更新した。具体的には、プロキシサーバ、DNS/Webサーバおよびネットワーク/サーバ機器管理システムである。このうち、プロキシサーバの更新は当初計画どおりの実施であるが、節約により、保守期限切れが迫っていた後2者についても前倒しで更新を行った。(2) ネットワーク機器の新設：グループウェアへの遠隔地からのアクセスを可能とするために、セキュリティが確保された形での接続が可能なVPNシステムを導入した。(3) ネットワークセキュリティの向上：ウィルス対策として、2種類のウィルス駆除ソフトウェア（Kaspersky Anti-VirusおよびESET NOD32）を各125ライセンス（所内のコンピュータ台数のおよそ半数ずつ）導入し、全てのコンピュータが一斉に不具合を引き起こさないような工夫を行っている。

2. ホームページの運用

研究所全体の広報、研究情報の発信としてホームページの運用を行っている。各部・センターのページは各担当者が個別に管理しているが、行事案内や出版物情報は研究所トップで周知するなど利便性向上を図っている。

(1) リニューアル：ホームページのレイアウトを変更し、各種の情報へのアクセスの利便性を向上させた。また、「東京文化財研究所概要」に基づいて情報を調査研究項目や部門ごとに整理し、業務紹介のページを作成した。(2) データ集、データベースの更新・掲載：ホームページではこれまで蓄積・整理された各種のデータ、データベースの公開を行っている。平成23年度は、2011年までに刊行された東京文化財研究所の刊行物（図書）のデータを掲載した。また、『日本美術年鑑』（当研究所刊行）所載美術界年史（彙報）について、1935年から1969年までを入力し、公開した。このほか、「黒田の筆触に迫る一作品のタッチから見えるもの」など画像による情報発信も実施した。(3) 定期・不定期の情報更新：各部・センターの調査研究その他の活動について、日本語および英語により「活動報告」として毎月掲載した。研究会開催や職員募集、入札公告などの情報は、依頼に応じて掲載した。(4) メールマガジン送信：ホームページ更新情報を直接発信するため、メールマガジンの送信を随時行った。(5) アクセス数：ホームページのアクセス（訪問者数）は1,314,541件で、前年度に比べ約17万4千件減少した。黒田記念館へのアクセスが前年と比べ大きく減り、他は微減あるいは増加しているため、震災や黒田記念館の長期閉館などの理由が考えられる。またリンク切れを整理し、効率的にアクセスするようになったことも影響していると思われる。

3. 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）への対応

文化財レスキュー事業の事務局が当研究所に設置されたことに伴い、事務局、構成団体などのメンバーリストを整備し、関係者間の連絡や活動日報など必要な情報共有について利便性の向上を図った。また、ホームページを通じて活動の概要や活動内容の広報を行うとともに、被災文化財の応急処置や適切な扱い方など、技術的な情報を提供した。

③資料作成・公開 Area13,20

ホームページの主な更新履歴（定期刊行物、活動報告、公募情報を除く）

11.04.27	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業ページ 設置	東京文化財研究所
11.05.02	パネル展示「無形文化遺産の記録」掲載	無形文化遺産部
11.05.09	特集陳列「海外の日本美術品の修復」開催案内	東京文化財研究所
11.06.20	第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会 開催案内	無形文化遺産部
11.06.27	被災文化財レスキュー事業実施状況 掲載	救援委員会
11.07.05	黒田の筆触に迫る一作品のタッチから見えるもの一掲載	企画情報部
11.08.11	黒田清輝関係文献目録『黒田清輝著述集』PDF版公開	〃
11.09.22	国際シンポジウム「文化遺産を危機から救え～緊急保存の現場から～」開催案内	コンソーシアム
11.09.29	第45回オープンレクチャー 開催案内	企画情報部
11.09.29	第6回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座 開催案内	無形文化遺産部
11.10.20	国際シンポジウム「大仏破壊から10年 世界遺産パーミヤーン遺跡の現状と未来」開催案内	文化遺産国際協力センター
11.11.07	第6回無形民俗文化財研究協議会 開催案内	無形文化遺産部
11.12.15	東京文化財研究所の刊行物（図書）1997-2011年分 追加	企画情報部
12.01.12	黒田清輝展巡回記録 更新	黒田記念館
12.01.23	黒田清輝作品一覧 更新	〃
12.01.25	『日本美術年鑑』 所載美術界年史（彙報）1935年～ 公開	企画情報部
12.02.01	「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」に関する研究会 開催案内	保存修復科学センター
12.02.03	第25回近代の文化遺産の保存と修復に関する研究会 開催案内	〃
12.02.06	メラニー・トレーデ氏講演会 開催案内	企画情報部
12.02.06	イリーナ・ボコバ ユネスコ事務局長講演会 開催案内	コンソーシアム
12.02.20	平成23年度総会及び第10回研究会「文化遺産保護の国際動向」開催案内	〃
12.02.20	研究会「アルメニア歴史博物館における文化財保存修復に関する交流事業」開催案内	文化遺産国際協力センター
12.03.01	研究会「キルギス共和国の文化遺産」開催案内	〃
12.03.01	黒田記念館巡回展 開催案内	黒田記念館
12.03.12	ユベール・ギメ氏来日記念講演会 開催案内	企画情報部
12.03.16	パネル展示「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 この1年」掲載	東京文化財研究所

アクセスランキング

1	全体index	6	黒田記念館全体
2	黒田記念館資料編（日記、書簡、作品一覧等）	7	『日本美術年鑑』 所載物故記事
3	文献目録、資料閲覧室、データベース等	8	文化遺産国際協力センター日本語
4	保存科学PDF	9	無形文化遺産研究報告PDF
5	東文研日本語	10	黒田清輝の生涯と芸術

研究組織

○二神葉子、田中淳、津田徹英、塩谷純、山梨絵美子、綿田稔、江村知子、小林達朗、皿井舞、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、広報委員（LAN）：川野邊渉、各部門LAN担当：崎部剛（研究支援推進部）、綿田稔、（企画情報部）、飯島満（無形文化遺産部）、森井順之（保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-11-1/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりや踏まえ、1) 受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、2) 閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、3) データベースの作成、検索システムの構築・ホームページ上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図ることを目的とする。

成 果

1. 資料閲覧室の運営

文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、1) インターネット上での公開を目指して朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、2) 劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のデジタル画像化をすすめるとともに、3) 国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。

2. 画像情報室

他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。通常フルカラー画像撮影件数4,847件、特殊画像撮影件数1,239件、デジタル画像撮影の全体に占める割合100%

3. 企画情報部にて作成・更新中のデータベース

標記のデータベースには以下の37種がある（作成件数44,492件、収録件数1,017,912件、公開件数992,355件）。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 所蔵和漢書（～10） | 20) 展覧会（03以降） |
| 2) 受入和漢書（11年度分） | 21) 近現代作家名 |
| 3) 所蔵洋書 | 22) 近現代展覧会開催情報（35以降） |
| 4) 所蔵簡易図書 | 23) 写真原板 |
| 5) 売立目録 | 24) キャビネット写真 |
| 6) 所蔵美術館博物館収蔵目録 | 25) 古美術文献目録（明治～65） |
| 7) 和雑誌誌名 | 26) 美術文献目録（35～07） |
| 8) 所蔵洋雑誌誌名 | 27) 美術館博物館名 |
| 9) 所蔵中国雑誌誌名 | 28) 東京文化財研究所年表 |
| 10) 所蔵韓国雑誌誌名 | 29) 美術研究総目次 |
| 11) 所蔵和雑誌巻号（～02） | 30) 撮影調査票 |
| 12) 所蔵洋雑誌巻号（～05） | 31) 古美術展覧会開催情報 |
| 13) 所蔵和雑誌巻号（03以降） | 32) 物故者記事 |
| 14) 所蔵洋雑誌巻号（06以降） | 33) 美術懇話会 |
| 15) 所蔵中国雑誌巻号 | 34) 開所記念展覧会出品目録 |
| 16) 所蔵韓国雑誌巻号 | 35) 美術家美術関係者情報 |
| 17) 所蔵地方公共団体刊行報告書 | 36) 画廊情報 |
| 18) 所蔵香取秀真資料関係 | 37) 美術史論壇 |
| 19) 展覧会（02まで） | |

4. インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中のデータベース

標記のデータベースには以下の15種がある。

③資料作成・公開 Area14

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1) 美術関係図書 | 9) 画廊資料 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 10) 美術関係文献 |
| 3) 保存修復関係図書 | 11) 『保存科学』 所載文献 |
| 4) 売立目録 | 12) 伝統芸能関係三雑誌所載文献 |
| 5) 展覧会カタログ | 13) 『美術研究』 総目次 |
| 6) 和雑誌 | 14) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 7) 写真原板 | 15) 伝統楽器情報 |
| 8) 美術家・美術関係者資料 | |

5. 図書受入数

和漢書797件、洋書99件、展覧会図録・報告書等1,986件、雑誌1,817件（受入総数4,699件）

37種の目録所在情報

6. 資料閲覧室の利用状況

公開日総数140日、利用者年間合計1,220人

研究組織

○津田徹英、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、塩谷純、綿田稔、小林達朗、江村知子、皿井舞、中村節子、橘川英規、井上さやか、中村明子、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-11-1/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

成 果

昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵SPレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認および媒体変換を行った。

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、今石みぎわ、綿貫潤、星野厚子（以上、無形文化遺産部）

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-11-1/5）

目 的

本プロジェクトは研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、および不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

成 果

(1) 『年報』2010年度版の刊行

2011年5月31日付で年報を刊行した。年報には、年次計画に基づいた運営費交付金によるプロジェクト研究、科学研究費や受託研究、寄付金による研究の成果のほか、研究会やワークショップなどすべての活動を網羅し、予算項目と活動内容との関連性を明確化する資料となる。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。

(2) 『概要』2011年度版の刊行

『概要』2011年度版を刊行した。概要は日英2カ国語により、研究所の組織や活動内容を簡潔かつ写真を多用してわかりやすく紹介している。各ページの構成は概要担当広報委員、編集担当および各部・センターの概要担当者の協議によって決定し、原稿のとりまとめは、各部・センターの概要担当者が行った。

なお、「年報」「概要」いずれもPDFファイルでホームページに掲載し、活動内容の情報公開に努めている。

(3) 『東文研ニュース』の刊行

『東文研ニュース』を年4回（第45号～48号）発行した。基本的には、ホームページに掲載した活動報告の四半期ごとの記事を掲載しているが、記事は活動報告から広報の必要性の高いものを各部・センターが選んでいる。また、『東文研ニュース』の英語版である『東文研ニュースダイジェスト』を年2回（第10号、11号）発行し、外国の関係機関への情報発信の手段とした。

東文研ニュースの配布先については、学芸員研修などの機会に各部・センターで新たな配布先を紹介してもらうなど増加に努めた。一方で、ウェブによる情報発信が主流になりつつなる現在の状況にかんがみ、PDFファイルでホームページにも掲載し、印刷部数は前年度より減らすことで費用を節減した。

(4) パネル展示の調整

1階エントランスホールにおいて、前年度に引き続き無形文化遺産部の研究成果の展示を行った。年度末に東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援活動への対応のため、下記の展示に更新した。

2011年3月29日～2012年3月15日「無形文化遺産の記録」（無形文化遺産部）

2012年3月16日～「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 この1年」（東京文化財研究所）

研究組織

○二神葉子、田中淳、津田徹英、塩谷純、山梨絵美子、綿田稔、江村知子、小林達朗、皿井舞、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、広報委員『年報』：田中淳、各部門年報担当：崎部剛（研究支援推進部）、津田徹英、皿井舞（以上、企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）、広報委員『概要』：岡田健、各部門概要担当：安孫子卓史（研究支援推進部）、江村知子（企画情報部）、今石みぎわ、高桑いづみ（以上、無形文化遺産部）、犬塚将英（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）、広報委員『ニュース』：宮田繁幸、各部門ニュース担当：安孫子卓史（研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、今石みぎわ（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）